

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。
暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を
込めて撮影している。



東盛あいかさんは、小学2年生の時に沖縄本島から母親の出身島である与那国島へと移り住んだ。子供の頃から活発で勝気だったあいかさんは、小さい頃から走ることが好きだったそうだ。高校へと進学した10代の頃は目指す目標が定まらず悩んだ時期もあり、その時に出会ったのが映画の世界だった。京都の芸術大学に進学すると、映画学科の俳優コースで演技の傍ら制作も学び、現在は東京の芸能事務所に所属しながら俳優業と同時にクリエイティブな方面でも活動を開始している。

あいかさんには、初めて会うのに、なんだかずつと前から知っているような、不思議な感覚を覚えた。それは多分、彼女が大学の卒業制作で主演、監督を務めた映画『ばちらぬん』をネット配信で観ていたからかもしれない。作品は作者を映し出す鏡のようなもので、彼女の映画を観たことで、まるで既に彼女に出会っていたかのような気分になっていた。

彼女のものごとに対する眼差しの向けかたは自分のそれと重なるところがあり、話していく惹かれ合うものがあった。「主観的であると同時に客観的でもある」とか、「とても近くて、遠くもある」といった感覚は、育った環境は違っていても、写真や映像に対して持つ言語が近い者同士が分かり合えるものだ。

あいかさんを想う時、与那国島の深くて濃い、うねる群青色の海と、頬を強く撫でる風を連想する。

水平線の、さらにその先へと伸びる道を、風を切って疾走するあいかさんの姿が目に浮かぶ。強く蹴り上げる彼女の力が刻むリズムは、与那国島の鼓動そのもの。

水野暁子　みずのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

●島人へのインタビューをまとめて紹介している YouTube チャンネル「八重山ライブラリー」も。